
なぜ災害教育研修・訓練が必要か

(山崎達枝、奥寺敬ほか・監：災害時のヘルスプロモーション、荘道社、2010、2-7)

2014年6月6日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

災害の定義

国連による定義

災害コミュニティの適応限界を超えた広範囲にわたる人・物・環境の破壊、深刻な社会機能の破壊

アメリカ赤十字による定義

個人を対象として、非常に苦痛な出来事であり、これらを緩和するためには支援が必要

災害の種類

1. 自然災害

火山噴火や地震といった危険な自然現象によって人命や人の社会的活動に被害が生じる現象をいう。

2. 人的災害

大型交通事故、原油流出事故、ビル火災などといった人が生活を営む上で便利になると考えたことが、時に事故に発展し多数の被災者を生むようになったものである。

3. 特殊災害

NBC 災害や局所的に発生した人的災害が広範的に拡大していく災害や自然災害・人的災害が混合した災害も含まれる。

防災から減災へ

防災

災害を静止または人的にコントロールして災害の発生を食い止め、ゼロにするという考え

減災

災害時に発生し得る人命や財産の社会的混乱や被害を最小化するための取り組み



減災とは、大きな自然に対する小さな人間という認識のもとに『対策の足し算で被害の引き算をはかる』という戦略によって、襲いかかってくる巨大災害に対抗することを言う。そこには 1 人でも多くの生命を救うために可能な限り力を尽くすという理念が息づいている。

災害に備えるために医療者が取り組むべきこと

1. 地域住民の生命と安全を守るために、地域内のすべての医療機関が連携して災害医療教育や防災・医療施設救護訓練に積極的に取り組む。
2. 災害拠点病院・基幹病院に指定されている医療施設がその中心的役割を担うことになるので、全ての医療者は「地域住民の生命と安全を守る」ための災害時の適切な行動を体で覚え、確認しておく。防災に対する住民の自覚を促すことは、災害時の連携をはぐくむことにつながっていく
3. 医療施設に働く職員一人一人が緊急事態や災害などの危機に対応できるように、平時から危機管理意識を高めていく必要がある。組織を上げて職員及び各部署の組織化、災害救急医療と救急時の体制づくりに取り組まなければならない
4. プレホスピタルケアの充実、すなわち、災害現場における救出直後および応急救護所における確かな医療の提供と、速やかな工法施設への搬送が可能な体制を整備しておく